

目 次

- あいさつ
大島地区文化協会連絡協議会会長 境 賢勇・・・・・・・・・・ 1
- 奄美市名瀬文化協会の活動について
奄美市文化協会会長 境 賢勇・・・・・・・・・・ 2
- 集落で受け継がれている伝統行事
大和村文化協会会長 中山 昭二・・・・・・・・・・ 4
- 宇検村文化協会の活動について～湯湾八月踊り保存会～
湯湾八月踊り保存会員 渡 博文・・・・・・・・・・ 6
- 文化協会の活動及び令和4年度 第5回瀬戸内町子ども文化祭について
瀬戸内町文化協会会長 城山 洋子・・・・・・・・・・ 8
- 龍郷町文化協会の活動～会員自ら作り上げるイベントをめざして～
龍郷町文化協会事務局・・・・・・・・・・ 10
- 第12回災害被災地支援チャリティーショーを開催して
喜界町文化協会会長 外内 千里・・・・・・・・・・ 12
- 『朗読って楽しいよ！』～朗読の楽しさや素晴らしさを伝えたい～
朗読サークル「いきゅんDo」 向井 久貴・・・・・・・・・・ 15
- 天城町文化協会の活動について
～奄美群島日本復帰70周年記念 第41回町民文化祭～
天城町文化協会事務局 永野 延浩・・・・・・・・・・ 18
- 島唄・踊り保存会「われら阿三」～伝統文化の保存・継承～
伊仙町中央公民館 松田 博樹・・・・・・・・・・ 20
- 和泊町文化協会活動について～令和5年度の文化事業の取組について～
和泊町文化協会 会長 山下 幸秀・・・・・・・・・・ 21
- 知名町文化協会の活動状況
知名町文化協会事務局・・・・・・・・・・ 24
- 与論民謡の継承と新しい芸能の構築に向けて
～太鼓と三線の音で島を盛り上げながら～
与論舞弦鼓代表 小高 明日香・・・・・・・・・・ 28

あいさつ

大島地区文化協会連絡協議会
会長 境 賢勇

各市町村文化行政担当課及び各市町村文化協会の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

また、当協議会の事業に対しまして、日頃から御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

この一年を振り返ってみますと、新型コロナが感染症法上の5類へ移行し、長引くコロナ禍を経て、伝統行事や文化活動が再開された年でありました。また、奄美群島日本復帰70周年という記念すべき一年として、「奄美群島日本復帰70周年記念」の冠称を付した行事や関連イベントが群島内各地で開催され、奄美群島の日本復帰の歴史的な意義を広く発信しながら、奄美の誇る伝統文化の継承活動に島民一体となって取り組む機運が醸成された年でした。

昨年7月には、高校生による芸術文化活動の祭典である「第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会（2023かごしま総文）」が開催され、「伝承芸能」と「和太鼓」の2部門からなる「郷土芸能部門」は、奄美市において実施されました。多彩な地域文化が息づく奄美で、郷土芸能への熱い思いをもった全国各地の高校生を始めとする多くの観客を前に、沖永良部高校のエイサーや奄美高校のシマ唄、八月踊り等奄美の誇る郷土芸能が披露されたことは、大きな喜びでありました。

また昨年9～10月にかけては、県指定無形民俗文化財の「油井の豊年踊り」や「徳之島町井之川夏目踊り」のほか、各地の豊年祭や十五夜祭りが4年ぶりに開催されました。豊かな自然とそこに暮らす人々によって育まれてきた伝統行事や踊りが、群島各地区・集落で継承されていることは、地域文化の振興につながることはもとより、地域住民の大切な交流の場であることを改めて深く感じました。

さらに、今年2月には、好評を博した「ほこらしゃ奄美音楽祭」が昨年引き続き開催されました。世界自然遺産に登録された奄美の独自の文化であるシマ唄の魅力が発信されるとともに、奄美大島で結成され活動している「奄美オーケストラ」との初共演や地域でのミニコンサート、子ども向け演奏教室の開催を通して、島の子どもから大人までが一流の音楽に触れ、アーティストと交流を深める貴重な機会になりました。

大島地区文化協会連絡協議会におきましても、平成19年度から2月18日を「方言の日」と定めたほか、これまで奄美地域のことわざや伝統文化、郷土料理についてのポスターを作成してきたところです。

大島地区文化協会連絡協議会としましては、今後とも、奄美の文化の振興と伝承に努めてまいりますので、関係の皆様には、御協力を賜りますようお願いいたします。

奄美市名瀬文化協会の活動について

奄美市文化協会会長 境 賢勇

1 はじめに

奄美市文化協会は、「奄美市名瀬文化協会」、「奄美市住用文化協会」、「奄美市笠利文化協会」の3団体で構成されており、奄美市名瀬文化協会は、昭和48年（1973）6月に創立され、令和5年（2023）に創立50周年を迎えました。

2 結成のねらい

- ① 各グループ間の相互理解と交流を深めること。
- ② 総合的な発表や展示会の開催で平素の学習と研鑽内容を充実させることができること。
- ③ 文化活動への総合的な理解を深めること。

3 主な活動内容

- ① 総会，定例役員会，勉強会，発表会，文化祭，芸能祭などの企画運営，会報発行
- ② 大島地区広域文化祭への参加
- ③ 各地区史跡巡り，各地区文化協会との交流

4 沿革

昭和48年（1973年）創立総会（創立当時15団体（412人））
平成5年（1993年）「県芸術文化奨励賞」受賞
平成10年（1998年）創立25周年記念式典・祝賀会 開催
平成18年（2006年）奄美市文化協会発足（名瀬市・住用村・笠利町合併に伴う）
令和4年（2022年）県民文化フェスタ in あまみ 2022 開催

5 令和5年度の活動

令和5年は創立50周年の節目を記念した多くの記念事業を行いました。

- ① 創立記念 G・ゴルフ大会
7月28日（金）にマングローブ G・ゴルフ場において創立記念 G・ゴルフ大会を開催し会員60名が参加しました。
- ② 奄美市名瀬文化協会創立50周年記念 第45回奄美市民文化祭
 - ・ 開催期間 11月1日（水）～11月5日（日）まで
 - ・ 参加団体 作品展示 16団体
舞台発表 46団体
 - ・ 入場者数 約 5,000人



③ 記念式典・祝賀会

12月12日（火）に奄美観光ホテルで記念式典・祝賀会を開催し、来賓14名と会員約120名が参加しました。

- ・ 表彰者 団体表彰 39 団体
 役員表彰者 8 名
 個人表彰者 6 名



④ 記念誌の発行

創立50周年記念事業の総括として、令和6年（2024）1月に記念誌を発行しました。

6 成果と今後の課題

現在、少子高齢化に伴い、本市も人口減少しており、会員の高齢化、会員減少傾向にあります。特にこの5年間はコロナ蔓延による団体活動の自粛、練習環境の悪化により会の廃止、会員の脱会などで協会加入団体が減少し文化の危機的状況にあります。

若年層の参加、後継者の育成や質の向上等、課題は山積しています。

今後とも文化協会の強化に取り組んでいく決意であり、関係機関や加盟各団体のご協力を頂きながら課題克服に努力していきたく思います。

集落で受け継がれている伝統行事

大和村文化協会会長 中山 昭二

1 はじめに

私たち大和村には 11 の集落がありますが、古くから続いてきた伝統行事が諸事情により途絶えた集落もあり、淋しい気持ちになります。しかし、その中で 4 集落においては豊年祭以外にその集落独自の伝統行事が今も残っています。今回は、その中から湯湾釜集落の「ムチモレ踊り」を紹介したいと思います。この「ムチモレ踊り」は、大和村で一番古い歴史をもち、明治以前から続いていると伝えられていますが、それよりも相当古い時代から続く集落伝統行事であるという説もあります。ですので、私たち大和村文化協会ではこの歴史ある集落文化が途絶えないように見守っていこうと考えております。

2 趣旨（祭りの目的）

(1) 防火思想の啓発と無病息災を願う。

旧暦 10 月の初めの（庚申、かのえさる）の日に行う。（諸事情で前後に実施することもある）

(2) 集落の水利問題を考える機会とする。

(3) 子供から老人まで参加することができる。

(4) 青年たちへ祭りの歴史を高齢者から聞くことができる。

(5) 歴史ある祭りを行うことで集落の輪を保つ。

(6) 近隣に住む出身者も参加することで全員が楽しめる祭り。

3 祭りの概要

昔、湯湾釜集落は水利が悪いため、一旦火災が発生すると大火となり、最後には田んぼの泥を投げ込み消火したことがこの行事の由来です。そして、水の大切さを伝えるために、泥団子を模して餅が作られるようになったそうです。各家庭で作られたカシャ餅は、祭りに参加している若者や見物にきている人々に配られます。

4 活動（祭り当日）

湯湾釜集落は、昭和 30 年代に集落独自で水源地から樋（とい）を通した水道を整備しています。祭り当日の朝は、水路（農業用水）の清掃と修繕を行います。陽が暮れてくると祭りは始まり、日が変わる頃まで続きます。若い男性が女性ものの浴衣を着て、ふろしきで顔を隠し、三味線とチジンに合わせてテンポよく男女の掛け合い唄に合わせて踊ります。ムチモレ踊りの唄は 30 番までであるといわれていますが、2 番まで紹介したいと思います。

【ムチモレ踊りの唄】

1 番

うずめずうめしよしいら 物のしられ しょうおろな
うずで 家戸開けて ふえ 入れて たぼれ
はらどんどんじゃ さまえととさんせー

2 番

あさと湯湾から 餅貰れが じゃおたな あたらしゃ ありんしょうちん
ふえ くれて たぼれはらどんどんじゃ さまえととさんせー

旧笠利町のカネサル行事（種おろし）のムチモレ唄とよく似ています。

【餅もれ唄（ムチモレ唄）】

種おろしよんち 餅もれがきよおてな
むちくれてたぼれ 祝ておすろ
はらどんどんじゃ こらとうさんせー



令和 5 年 11 月

5 おわりに

湯湾釜集落がなぜ途絶えることなくこの祭りが続いたのか、考えると先祖から脈々と続けられてきた伝統文化を絶やしてはならないという集落の強い思いがあるのと、常にリーダーがいたことが考えられます。毎年祭りをを行うことにより、集落は強い連帯感が生まれ、集落運営もよい方向に進んでいると思われれます。大和村文化協会は、このムチモレの伝統文化を模範とし、他の集落を激励しなくてはと考えています。先ごろ新聞で、文化や伝統が消えれば集落が味気ない土地になる、という記事がありましたが、まさにそのとおりだと思います。

宇検村文化協会の活動について

～湯湾八月踊り保存会～

湯湾八月踊り保存会員 渡 博文

1 はじめに

令和5年は、新型コロナウイルス感染症がようやく5類に移行され、コロナ禍前の日常が戻り、宇検村においては14の全集落で伝統の豊年祭が開催され八月踊りも復活し、地域住民の笑顔を見ることができた。

改めてコミュニケーションの大切さ、その中心が地域の文化であることを知ることができた一年だった。

2 趣旨（湯湾八月踊り保存会）

湯湾集落は世帯数250戸、人口463人（令和5年11月末現在）の宇検村の中心地で、集落一番の伝統行事は9月（旧暦のアラスィツィ）の豊年祭であり、八月踊り・唄である。

シマ唄は個人が三味線を奏でて唄うのに対し、八月踊り・唄は参加者全員で男女掛け合う踊り・唄であることが違いであり特徴でもある。

3 概要（湯湾八月踊り保存会）

20年以上前は集落の人口も多く、八月踊りや唄を知っている人が多かったが、高齢化や方言を使えない若者の増加で、年々唄い手やツイヅイン（太鼓）の打ち手が少なくなってきた状況があった。その後、現在の宇検村文化協会会長の直三男也氏が帰郷されて、平成19年に湯湾八月踊り保存会が結成されたのを機会に、継承活動が動き出し現在に至っている。

4 活動実績

	行事名	場所
令和5年毎月	八月踊り・唄の練習及び継承	湯湾生活会館
令和5年9月8日	「ゆめときめき鹿児島ねんりん大会」芸能大会（大島地区代表）	鹿児島市民文化ホール
令和5年9月17日	湯湾集落豊年祭	アシャゲ
令和5年11月19日	宇検村生涯学習推進大会・文化祭	村元気の出る館
その他	大島地区教育委員会連絡協議会総会 で出演 等	

5 活動状況

【ゆめときめき鹿児島ねんりん大会・芸能大会出演時】



【宇検村生涯学習推進大会・文化祭出演時】



6 成果と今後の課題

50歳代～60歳代までの女性の後継者が増えたことで活気が増したが、10年先を見据えた継承を考えたとき、関心を持つ若者も多く後継者不足ではないが、20歳代～50歳代を一人でも多く保存会に参加してもらえるようにすることが、今後は重要な課題である。

7 おわりに

湯湾集落の八月踊りは、「ながね」や「くずし」を含めると36の曲数となり、宇検村内では芦検集落の次に多い踊り・唄がある。それぞれの歌詞を解釈してみると恋愛、礼節や教え、喜びや悲しみ等、様々な感情が込められていて非常に勉強になる。方言や歌詞の意味も含め、これからも八月踊り・唄を引き継いでいけるよう活動していきたいと思う。

文化協会の活動及び令和4年度 第5回瀬戸内町子ども文化祭について

瀬戸内町文化協会会長 城山 洋子

【はじめに】

瀬戸内町文化協会は、地域文化の創造発展と併せて会員相互の親睦を図り、地域文化の振興に寄与することを目的としています。令和5年度は、加盟団体数37団体463名の会員で活動を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりに開催し、町民の皆様から「すごく楽しみに待っていました」などの温かいお声もいただき、文化には楽しさや感動、精神的なやすらぎをもたらす効果があるということをあらためて実感いたしました。令和元年度に協会の自主事業として第1回目を開催し、今回で5回目となりました。伝統文化及び芸術の担い手育成及び継承活動として、今後も引き続き地域文化を発信していきたいと思っております。

瀬戸内町文化協会加入団体数・会員数の推移

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
加盟団体数	37団体	38団体	35団体	35団体	37団体
会員数	591名	517	543	543	463

【活動組織】

部門毎に理事を選出し、文化協会の目的達成のため協議し、活動に向けています。

また、事業推進のため実行委員会を立ち上げ活動を行っています。

【事業内容】

- ・地域文化の継承、保存活動
- ・各種発表会及び展示会
- ・八月踊り大会
- ・文化祭
- ・地域文化の継承・保存活動助成金交付

【今年度の活動内容】

- ・瀬戸内町文化祭
- ・子ども文化祭
子ども文化祭での舞台発表及び展示



中学生のピアノ演奏



瀬戸内金管バンドの演奏

【 今後の課題 】

瀬戸内町には、それぞれの集落において、古くから伝わる独自の伝統芸能があります。

集落での豊年祭などでは演じられていますが、高齢化や人口減少、なによりコロナの影響で豊年祭が中止になるなど発表の場面が失われつつあります。文化祭以外に伝統芸能部門に特化したイベントの企画などあらたな取り組みも検討し、地域文化の保存・発展の中心的役割を担っていきたいと思います。

また、令和5年度から補助金を増額してもらい、文化に関わる担い手の育成事業を実施しており、次代に繋げる環境の構築に努めております。

龍郷町文化協会の活動

～会員自ら作り上げるイベントをめざして～

龍郷町文化協会事務局

1 はじめに

龍郷町文化協会は、地域の文化の創造発展をはかり、文化団体相互の連絡と親睦を深め郷土の文化の振興に寄与する事を目的としている。

2 龍郷町文化協会「文化祭」の趣旨・目的

龍郷町文化協会「文化祭」では、本町文化協会に加盟している団体による独自の創作、演技の発表の場として、本町伝統文化の継承と底辺拡大を呼びかけ、町民が一体となって楽しむ事を趣旨としている。

3 「文化祭」の活動状況

龍郷町文化協会主催で行っているイベントということで、本町文化協会に加盟している団体のみが出演できるということで、チケットの販売から広報活動、当日は、教育委員会からもサポートしてもらいながらイベントを開催している。



文化祭タイムスケジュール

11月10日	第1回文化祭打合せ会	出演団体の確認
12月11日	第2回文化祭打合せ会	プログラム・練習日の抽選 チケット配布
1月9日～25日	りゅうゆう館にて各団体練習	
1月23日	全体リハーサル	18:30 から 20:20
1月26日	広報活動	奄美新聞/南海日日新聞社
1月28日	本番	

～文化祭の様子～



4 成果と今後の課題

新型コロナウイルスの影響で中止や縮小での開催が続き、通常開催は4年で、以前と比べると出場団体が減ってしまった。しかし、今年度は、7団体で約2時間30分のプログラムを作ることができた。

今後は、もう少し早い段階から計画をして、運営していけるようにしたい。

5 おわりに

このイベントに出演する会員もいいステージを披露出来るよう、日々稽古に励んでいる。今後も、町民が一体となって楽しむ場を提供したい。

第12回災害被災地支援チャリティーショーを開催して

喜界町文化協会会長 外内 千里

1 はじめに

平成23年3月11日午後2時46分に発生した三陸沖を震源としたマグニチュード8.8の巨大地震は被災した現地はもとより、日本全国を大混乱に陥れました。テレビを見ると、港から徐々に潮が引いていき、今度は大波が押し寄せ建物を次々飲み込んで行く、自衛隊のヘリの中継では、波が川に沿って上流へ押し寄せる様が、今でも脳裏に焼き付いて離れません。

このような状況で、私達に被災地の支援はできないかと考えた時、文化協会の一員である私達にできる事は、「東日本大震災被災地支援チャリティーショー」での義援金で支援をすることでした。これまでの文化協会の活動は、町内9つの各小学校校区で順番に、各小学校校区で傳承されている伝統芸能の発掘と、日頃舞台を見る機会が無い方々へ芸能に親しんでもらうための「地域文化祭」の開催や、夏祭り協賛会主催の「演芸歌謡ショー」、町が開催する「しま興し祭り」、「生涯学習推進大会」の舞台出演が主な活動の場でしたが、学校再編で地域文化祭開催の継続が困難になり、また町の行財政改革によるしま興し祭りの取りやめで、会員の出演機会が少なくなる中、新たな舞台となったのがチャリティーショーでした。

コロナの影響での3年間は開催出来ませんでした。今年は無事開催することが出来ました。それぞれの団体はコロナの猛威の中でも会員関係者だけの出演機会を創るなど、練習機会を工夫されており、充実した舞台を演じておりました。最後の六調で大いに盛り上がり、久々の感動する舞台演出が出来ました。

2 プログラム

第12回災害被災地支援チャリティーショープログラム

日時：令和5年5月28日（日）13：00開場 13：30開演

場所：休養村管理センター 司会：澤田のぞみ

入場料：無料（募金箱を設置しますので皆様からの募金をお願いします。）

順番	出演者（団体）	種目	演目	開始時間
1	琴城流大正琴	大正琴	さとうきび畑 島のブルース	13時30分
2	文化協会会長 教育長	挨拶	開会挨拶 来賓挨拶	13時42分
3	喜界歌謡サウンド	歌謡	函館の女 残波	13時47分

4	喜界子供エイサー	エイサー	仲順流り 滝落とし 県道節 新時代	14時00分
5	一条流翠香会	日本舞踊	峠越え	14時09分
6	はまゆうコーラス	合唱	遠き山に日は落ちて	14時16分
7	喜界島民謡保存会	しま唄	志戸桶まんこい節 伊実久ばしゃ山節 田植え唄	14時21分
		休憩		10分
8	月下美人	大正琴	はた織り娘 お月さん今晚は	14時43分
9	アヌエヌエ・フラ教室	フラダンス	アロハユー レイコエラ マリーゴールド 糸	14時54分
10	喜界島ウインドアンサンブル	吹奏楽	シマロンスケッチ ラジオ体操第一	15時11分
11	手話サークルミミ	手話	たしかなこと (小田和正)	15時11分
12	吾妻流藤豊会	日本舞踊	朱雀	15時30分
13	喜界島太鼓	太鼓	打ち合わせ太鼓 踊り打ち	15時40分
14	奄美芸能島唄研究会	民謡	朝花節 豊年節 喜界やよい島	15時55分
15	続六調太鼓	太鼓	六調	16時10分
16	文化協会副会長	閉会挨拶		16時15分

3 活動状況

平成24年4月15日に第1回のチャリティーショーを開催し、入場料、募金から実費除き、喜界町社会福祉法人を通じて東日本大災害被災地支援として寄付致しました。令和元年の第8回まで毎年喜界町文化協会の年間活動として開催し、書き損じハガキを提供していただき「日本ユネスコ協会連盟」へ送付するなど活動を広げて参りました。残念ながら令和2年～4年の3年間はコロナのため開催を断念しましたが、今年度は5月28日に第12回を開催致しました。第1回の義援金は、町民の関心も高く、金額も30万円を超えましたが、その後は毎年10万円前後を推移しております。また寄付金の対象も大震災の被災地が落ち着きを取り戻したことで、

その後の平成 28 年の熊本地震等の災害もあり、今では寄付先の対象を被害の状況に応じて変えております。

4 成果と課題

チャリティーショー開催の目的は、東日本大震災を教訓に「自然災害の脅威を忘れず日頃から備える」、「人と人の助け合いの大切にする」、「文化活動の充実し活動を高める」を目的としてしております。それぞれの団体が出演の機会を求めており、活動が助け合いに繋がることで、意識の高揚に繋がるのではないのでしょうか。

今後も加盟団体の活動内容充実、出演機会の確保をはかり、活動の継続を図っていければと思っています。

5 最後に

令和 6 年 1 月は、年始早々に石川県を中心とする地震災害が発生し、多くの人たちが災害に遭われております。また羽田空港では、支援物資を搭載した海上保安庁の飛行機と JAL の飛行機が衝突し、JAL の乗客 367 名は、乗務員 12 名の日頃の訓練による的確な誘導により無事脱出し、あわや大惨事となる事態は避けられましたが、海上保安庁職員 6 名中 5 名の方が亡くなるという痛ましい事故が発生しております。災害は何時何処で起こるかわかりません。私たちは肝に銘じなければなりません。

最後に被害に遭われた方々にお見舞い申し上げますと共にご冥福をお祈りします。

